

消費地情報

和歌山県農業協同組合連合会 名古屋事務所



はじめに

本県産夏果実の販売は、青梅からスタートし、スイカ、スモモ、桃と続いています。主力品目である青梅は、本年産は潤沢な出荷となる見通しであったため、関係各所と協議をすすめ、積極的な消費拡大対策を計画しました。

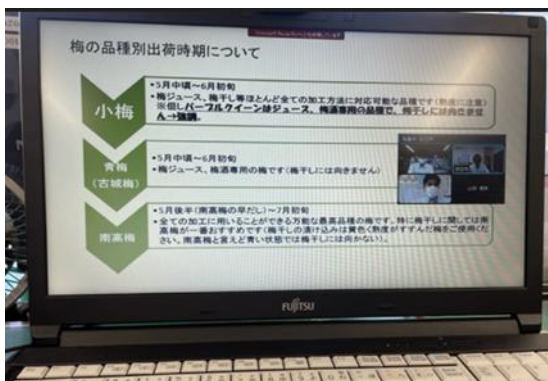
そこで、今回は、消費宣伝活動や食育活動を中心とした「青梅」の消費拡大対策の取組みをご紹介します。

デモンストレーターWEB研修会

本年度は、大半の量販店で推奨販売が可能となったことから、店頭でのデモンストレーターによる青梅の販売促進強化につなげるため、青梅の販売が開始される前にデモンストレーター研修会（WEB）を実施しました。

研修会では、青梅の特徴や青梅加工方法についての研修を行いました。

特に今回、参加されたデモンストレーターから事前にアンケートを取り、青梅や青梅加工方法についての疑問点や訴求点等を双方把握したうえで意見交換を実施したことで、理解度が増すなど、より充実した研修内容となりました。



デモンストレーターWEB研修会

青梅消費宣伝活動

本年度の青梅消費宣伝活動として、梅シロップ用氷砂糖を使用した推奨販売や1kg活用POP、売り場コンテスト、ポイント付与キャンペーンなどの消費宣伝活動を行いました。

特に推奨販売では、梅ジュースや梅サワー向けの用途として、そのまま果実を入れるだけの簡単トライアルキットをサンプル提供することで、若年層を中心とした青梅の消費拡大に努めました。

また、今回、新たに1kg活用POPを作製し、量販店の売り場で使用して頂きました。南高梅の出荷後半となる6月中旬以降、既に梅を購入・調理した消費者の方々を中心に、梅は冷凍できること、1kgで様々な料理に使用できることをPRすることで、更なる追加購入につなげました。



推進販売の様子



1kg活用POP



量販店売り場の様子

和歌山フェア

6月4日（土）、5日（日）に重点特約店であるユニー(株) アピタ2店舗で、和歌山フェアを実施しました。

最盛期を迎える『南高梅』を中心にミニトマト（赤糖房・優糖星）、小玉スイカで売り場を彩るとともに、イベント企画として、ガラガラ抽選会や青梅加工講習会を実施し、一層の需要喚起と消費拡大を図り、和歌山ファン作りに取り組めました。

今回、3年ぶりの開催となった店舗での青梅加工講習会は、大変好評を得る結果となりました。



ガラガラ抽選会



青梅加工講習会



和歌山フェアの様子



青梅食育活動

6月11日（土）に名古屋市と連携して親子を対象とした青梅加工講習会を実施しました。本県産青梅の魅力をもPRするとともに、梅シロップ作りを通じて、梅加工の楽しさを知ってもらいました。

当日は田辺市梅振興室職員とJA紀南職員にも参加して頂き、青梅の特徴や梅干し・梅ジャム等の青梅加工方法について、実演を交えながら説明をして頂きました。

また、6月18日（土）、19日（日）に愛知県国際展示場で開催された「食育推進全国大会」に出展し、本県産青梅と新しょうがに関する簡単な加工方法の提案を行い、県産農産物のPR強化に取り組めました。



青梅加工親子教室



食育推進全国大会

おわりに

ウクライナ情勢や円安などにより、小麦粉や生活油等の生活必需品が値上がりし、量販店での青果物の購入が必要最低限になっているという声もあり、今後の消費動向が懸念されます。

当事務所では、重点卸売会社と重点特約店との連携をより一層強化し、消費地の販売環境やマーケット情報を的確にとらえることで、さらなる本県産農産物の消費拡大と和歌山ファンの獲得に努めていきます。